

次期あいち健康福祉ビジョン（仮称）（案）【概要】

第1章 ビジョン策定の基本的な考え方

1. 策定の趣旨

- 平成23年6月に「あいち健康福祉ビジョン」を策定し、分野別の個別計画と一体となって福祉、保健、医療に関する取組を推進（計画期間：平成23度～平成27年度）
- 今後さらなる少子高齢化、人口減少社会の到来などに伴い、健康福祉ニーズはますます多様化・複雑化の見込
- 社会状況の変化に的確に対応するため、健康福祉全般にわたる包括的な視点で将来の健康福祉のあるべき姿やライフステージに応じた切れ目ない施策の方向性を明らかにする必要がある、本ビジョンで示す

2. 次期ビジョンの性格と位置付け

- 地域の様々な主体が方向を共有するための基本指針
- 個別計画の上位計画とし、分野横断的・重点的な取組の方向性を示す
- 「地域福祉支援計画」（社会福祉法第108条）及び「障害者計画」（障害者基本法第11条）として位置付け
- 「あいちビジョン2020」及び「愛知県人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」を反映

3. 目標年次

団塊の世代が75歳以上となる平成37年を展望し平成32年を目標とする

計画期間

平成28年度～平成32年度【5年間】

第2章 健康福祉を取り巻く社会情勢の現状・展望

1. 超高齢社会の進行

(1) 高齢者の増加

- ・平成37年の65歳以上人口194万人（平成26年の171万人の1.13倍）
- ・高齢化率は26.4%まで上昇見込（平成26年は23.2%）
- ・特に75歳以上が急増、都市部での高齢化が進展

(2) 認知症高齢者等の増加

- ・平成37年の認知症高齢者数36万9千人（平成24年の23万7千人の約1.56倍に急増見込）
- ・社会生活を継続しながら外来でがんの治療を受ける患者の増加見込

(3) 障害のある人の高齢化と重度化の進行

- ・いずれの障害も65歳以上の割合が増加
- ・身体障害と精神障害は重度の割合が増加

2. 人口減少社会の到来

(1) 少子化の進行

- ・平成26年の合計特殊出生率1.46で人口の維持に必要な2.07から大きく乖離

(2) 本県の人口推計

- ・人口は平成32年頃をピークに徐々に減少見込

3. 社会環境の変化

(1) 家庭の変化

- ・世帯の小規模化、特に高齢単身世帯の増加（平成27年28万9千世帯→平成37年34万6千世帯）

(2) 地域社会の変化

- ・人間関係の希薄化、コミュニティ機能の低下、外国人の増加

(3) 健康福祉ニーズの多様化・複雑化

- ・働き方などの多様化に伴い、ニーズも多様化・複雑化
- ・仕事と介護の両立に向けた支援必要

(4) 健康福祉人材の不足

- ・医療従事者の慢性的不足・偏在
- ・平成37年の介護職員数は約2万4千人不足見込

(5) ICTの進展

- ・健康福祉分野でのICT（情報通信技術）を活用した様々な取組

(6) 災害リスクの増大

- ・災害時要配慮者の支援体制の整備が必要

第3章 めざすべき健康福祉の姿

1. 基本理念

ともに支え合う安心・健やかで幸せなあいち
～「あいち健幸社会」の実現

- ・現行ビジョンの基本理念を継承
- ・誰もが健やかで幸せに暮らせる社会を「健幸社会」と名付け、こうしたあいちの実現をめざしていく

2. めざすべき健康福祉社会

（5年後、10年後のめざすべき愛知の健康福祉社会の姿は次のとおり）

子ども、若者、女性、高齢者、障害のある人など、
すべての人が活躍する「人が輝くあいち」

3. 基本姿勢

（めざすべき健康福祉社会の実現のため、特に次の点を重視して施策の展開を図る）

- ① 健康福祉社会を支える人材の育成・確保を図る【人づくり】
- ② すべての人が社会の一員としてともに暮らし、支え合う【地域づくり】
- ③ 健康寿命を延ばし、健康寿命日本一をめざす【健康づくり】
- ④ 安心して働き続けることができる【環境づくり】

第4章 施策の方向性と主要な取組

- I. 子ども・子育て支援 ～「日本一子育てしやすいあいち」の実現をめざして～
- II. 健康長寿 ～「健康長寿あいち」の実現をめざして～
- III. 医療・介護 ～住み慣れた地域で必要なサービスが受けられる社会をめざして～
- IV. 障害者支援 ～身近な地域で共に暮らせる新しい社会に向けて～
- V. 健康福祉を支える地域づくり・人づくり ～ともに支え合う社会をめざして～

第5章 ライフステージに応じた健康福祉のかかわり

ライフステージを6つに区分し、ライフステージ毎の健康福祉とのかかわりについて示す

1. 幼児期………子どもの健やかな成長、地域における子ども・子育て支援、児童虐待の防止
2. 就学期………社会人としてふさわしい能力を身につける、放課後の安全・安心
3. 就労期（前期）…経済的な自立、希望に応じた結婚・子育て、出産・子育てと社会生活の両立
4. 就労期（後期）…親の介護や病気の治療と社会生活の両立、健康的な生活習慣・健診による生活習慣予防
5. 高齢期（前期）…社会の担い手として生きがいを持って暮らす
6. 高齢期（後期）…必要なサービスを受けて地域で暮らす、人生の最後の時期を自分らしく過ごす

第6章 ビジョンの推進

- 「健康福祉ビジョン推進本部」において年次レポートを作成し進行管理を行う